

# ◎東京街路感

明治神宮造營局技師

小林政一

自分は建築家であるから道路の問題については全くの素人である、専門的の知識はまるでない、従つて以下述ぶる事は素人としての所感であり、理想であるので悪しからず御諒察を願ひたい。

## 一

東京の街路の悪いのは今更申す迄の事もない程であるが之を大別して考へると次の三方面があると思ふ、即ち道路自身が悪いく、交通整理が不十分なること、街路の美觀が整へないと言ふ事にあると思ふ。

第一の道路自身が悪い事に就ては申す迄もなく電車道の敷石がひっくり返つて居るとか、舗装がくづれて水溜りがある

とか、歩道の混凝土ブロックが凸凹になつて危険であるとか始終アスファルトの煙を立て、修繕ばかりをして居るとか言ふ問題では等は銀座日本橋通りの如き一等道路を考へてさへ直に頭に浮んで來る事柄である。況んや第二流以下の街路に於ては所謂風吹けば黄塵萬丈、雨降れば泥濘靴を没すで誠に困つた問題である。而して之が改良は東京の地質、及氣候等と關連して研考を要する問題であるから、一概に外國の都市に理想を置いて考へるのは無理ではなからうかと思ふ。又大

の經費を要することであるから急速に完全を期することは到底難しい問題で一段一段と着々進めて行くより仕方がないであらう。

然し翻つて考へると如何に道路の構造や、舗装ばかりやかましく言つて完全なるものを造つても、其の使用方法が悪ければ効果も薄いであらうし又壞れ方も早い譯であると思ふ。

現在の様に鐵輪の荷車や、ガタガタのトラックや、圓太郎やタクシトや種々雑多なものが勝手放題に地響きを立て、横行するのは如何に丈夫な混泥土道路でも壞れるのは當然である。

少しづつ、にても高足駄の齒先きにて知らず知らずほご繰り返すのも輕視する譯には行かまい、商店の前に我物顔に自轉車荷車等を一面に並べ、塵泥は遠慮なく下水に流し込んで平氣な様では如何に道幅を廣げ下水を大きくしても駄目であると思ふ。街路には各其の構造なり性質なりと關連して使用の標準とか注意とかがあるべきであると思ふが未だ是等の宣傳を聞かない。道路に關する知識を一般に普及して市民の自覺を促し、大切に使用する様せしむることは最も必要なことではないかと思ふ。

第二の交通整理の問題も同様である。銀座の通りと言へば馬力であれ、自動車であれ、老人であれ小兒であれ、悉くの者が之を通つて、十間離れた裏通りはろくに人も通らぬと言ふ状態では如何に交通巡查が頑張つても危険を脱することは難しいし又道路の悪くなるのも尤もである。根本的に道路の配置を變へて商店街路、運搬道路、電車道路を別々に設け運搬電車の道路は裏通りとなし、表通りは商店街路として主と

して人道のみとするでなければ到底街路の完全も、美觀も交通安全も期し難いではないかと思ふのである。

第三の美觀に關しては兩側の建築物にも依ることであるから道路のみに望むことは無理であるかも知れぬ。然し現在の様な建築物にお構ひなしの、固苦しい、定規で割つた様なものではありたくない。何とかもう少し自然に立脚した柔みのあるものにする方法は無いものであらうか。街路樹にしても其の通りで千變一律のイテウ樹許りでも枯れかゝつた様な誠に貧弱なもののみでは美觀も風致もあつたものでない。もつと變つた種類の活き活きしたもので人造的の箱庭でなく、自然的のものを以てする法はないであらうか。

### 三

東京市街は既に一尺の餘祐も許さない誠に窮屈なものになつてしまつた。そして市民は石や煉瓦やコンクリート等の灰色な冷たい、堅くらしい箱の中の様な處に生活して居るのである。市民は緑の樹蔭を慕ひ大自然の氣に渴して居るのである。樹蔭に汗を拭き芝生に憩ひて少時でも勞苦を休める事の出来る様な場所は悲しい哉東京には一つも無いと言つてよいと思ふ。日比谷公園にしる芝公園にしる上野公園にしる何れ

も箱庭式のコセコセした、塵埃だらけの醜惡なものになつてしまつた。謂んや其の他の數寄屋橋、龜澤町其の他所々に散在する小公園は貧弱な樹木の植込みと、共同便所以外には何にも目につかない空地の様な氣がするものである。

斯く考へると自分は是非市の縱横に貫通して所謂公園道路を二つ位は少くとも設けたいと思ふのである。そして其處には大樹木を植え一面の芝生を造り、所々小噴水や草花等を配して悠々逍遙し得らるゝ様なものにしたいたいものだと思ふ。

## ◎米國地方道路費財源に關する一考察

法學士 伊 東 俊 雄

次に掲げるのは米國道路財政調査委員長マックケイ博士が第三回米國國政調査會技術部會議の席上で述べた報告の概要である。國情、法制を異にする結果、直ちに採つて以て吾國に當嵌むることを得ないが、何處も同じく道路財政の行詰れる今日、多少の參考にもならばと思ひ敢て高覽に供する次第である。

する方面の調査が閑却されてゐた。其故茲に於ては郡以下の道路財政に就て考究して見やうと思ふのである。

現在の道路財政手段の妥當若くは得失に就て決論を下す前に、其代表的な諸州に於ける市町村、郡、及び州の道路費財源に關して充分な研究を遂げる必要がある。從來此種の調査の多くは道路に對する州(State)の財源に關する研究に限られてゐて、郡(County)或は市町村(Local)の道路築設維持費に關

次に述べる結果は一九一五年から一九二一年に至る七ヶ年間のウイスコンシン州に於ける四郡の歳出入の調査に基くものである。ウイスコンシン州を選んだのは、其の道路財政組織に於ては、道路費の年々増大して行く経路が他の諸州に比してほゞ中位にある州を代表するものであるからである。其中の四郡即ちデーン、アウトガミー、ラスク、ウアークシ